

第2期 第1回向日市エコ地域推進委員会議 会議録

- ・ 日 時 : 平成20年5月26日(月)
午前10時30分～午後0時10分
- ・ 場 所 : 向日市役所 第1会議室
- ・ 出席者 : 委員 12名 (1名 欠席)
上田市民生活部長 木村市民生活部次長 山本市民生活部次長
谷川課長補佐 笹田係長 高津総括主任
- ・ 傍聴者 : なし
- ・ 議 題 : 1.委嘱状交付
2.エコ地域推進委員会議の趣旨について
3.本年度の取り組みについて

(事務局)

開会あいさつ

(市長)

あいさつ

(事務局)

委嘱状交付後、委員の自己紹介

事務局員の紹介

配布資料の確認後、会議の公開に関する要綱の説明

引き続き、向日市エコ地域推進委員会議設置要綱の説明

次に、座長の選出については、事務局一任を取り付け、佐野國男氏を指名する

(異議なし)

続いて、座長より土橋裕士氏を副座長に指名する

(異議なし)

(事務局)

エコ地域推進委員会議取組について提案

・ 本年度の取組

(1)「ノーレジ袋・マイバッグ運動デー」街頭啓発(継続取組)

毎月30日、午前10時～10時30分頃まで、向日町サティ前にて街頭啓発を実施

(2) 6月の環境月間において、「クリーンプラザおとくに」見学会

日時：6月24日（火）午後1時15分～3時45分

(3) 向日市まつり出展（11月中旬に競輪場にて開催）

(4) 推進委員会視察研修

(5) 環境フォーラム（予定）

・検討取組

(1) 竹林の保全

放置竹林の竹を、推進委員やボランティアで伐採し、美しい竹やぶを維持していく取組。

《問題点》

- ・所有者に了解が得られるかどうか
 - ・伐採中に事故が発生した場合の対処
 - ・体力的にも負担が大きい
 - ・竹を切ったあとの処理
- など、今後の課題となる。

(2) 資源物有効利用

「廃食油の回収」を提案

【 委員より意見等 】

■レジ袋・ごみ減量について

- ・スーパーではレジ袋が必要かどうかの確認をしてもらうよう依頼し、市内の各店では、レジ袋削減の協力を依頼する。
- ・サティで街頭啓発をしている時間帯に「ノーレジ袋・マイバック運動デー」の館内放送をしてはどうか。
- ・運動を起こしてから、市民の意識がどれくらい変わったのか、現状調査をしておく必要がある。
- ・県を挙げて取り組んでいるところがある。京都府でもノーレジ袋の号令をかけないと、我々の最終目的は得られないのではないかと、そのあたりまで、行政と一緒に考えていかなければならないのではないかと。
- ・街頭啓発の時間帯を買い物客が多い夕方にしてはどうか。
- ・「ノーレジ袋・マイバッグ運動デー」の10・20・30日に、のぼり旗を設置し意識付けを図り、30日の街頭啓発時には、旗を設置する時間を10時から4時頃まで延長してはどうか。回収は、市と委員が協力して回収する。

- ・マイバッグ運動を続かせるやり方や、会社側が企業として温暖化防止に協力している姿勢をどうやって示すかが大事。
- ・「イオン」の取組から見ると、向日市の企業はまだ弱そうである。そういうところには、コミュニケーションをとり、協力してもらう方法が必要。
- ・レジ袋がゴミ袋としてどのくらい使われていて、どれだけ無駄な CO₂を出しているのかをつかんでおく。
- ・啓発用のティッシュの中のチラシに、レジ袋10枚で CO₂をどれだけ出していますとか、書いてあればいいのではないか。
- ・レジ袋を使わなければどのように貢献できるのか、わからない方が多いと思うので、こうすればいいということを知らす。
- ・地産地消を積極的に進めることはごみ減量につながる。
- ・生ごみの水分の取り方を広報紙等で紹介し、市民に周知してはどうか。
- ・生ごみを堆肥化して野菜作りをし、その野菜を採って食べる喜びを覚えてもらったら、生ごみを減らす意識を持つのではないか。
- ・今後、組織作りをして、いろいろな会を作っていくかといけいないのではないか。
- ・もっとごみ減量をやかましく言わないといけいない。
- ・ごみ減量化の地域を決め、集中的に力を入れて、その地域を目立つようにして、それにみんなが引きずられていくような方法もあると思う。

(事務局)

- ・のぼり旗は、ごみの推進協力店と大型スーパーなど、50ヶ所以上に配っているのので、毎日設置しているところもある。
サティ前での旗の設置時間については、一番目立つところでもあるので今後考えていきたい。

■放置竹林について

- ・竹を切ることはむつかしく、技術を必要とする。事故を起こしても大変だし、まして親竹を切ることはむつかしい。
- ・美しい竹林にならないものか、という思いはある。
ひとつの竹林をモデルにするのであれば、どういうやり方をするのか学習し、技術を教えてもらわないといけいない。
- ・竹林の場所や伐採の方法など、行政が案を立て、それを検討する。

- ・ 放置竹林の場所・規模・どこを処理すれば一番効果があるか、この委員会で検討し、竹林の処理をしていることを市民に見せないと、だれもついでこない。

(事務局)

- ・ 竹やぶの問題につきましては、持主が高齢であり、竹やぶの管理ができないところがあるとの情報を聞いている。こちらから処理する旨の声をかければ喜んで受けていただけたらと思う。
伐採の後の処理について、一番いいのはチップ状にすること。しかし、設備投資がかかる。そのまま腐らす方法もある。また、長岡京市でも行っている竹炭にする方法。これもかなりの設備の費用がかかり窯も必要となる。一度、日程が合えば見学してはどうか。
処理については、今後の問題となる。

■ 廃油回収について

- ・ 廃油の回収については、廃油を市で集めてこのメンバーで石けんを作ってはどうか。
- ・ 他の団体でも油回収をしようと思っている。市として、支援はしていただけるのか。

(事務局)

- ・ 向日市のごみの減量化を図る上では、生ごみを根本的に減らしていかなければならない。そのひとつの手段として、油回収がある。
油回収は、河川の美化にもつながる。
京都市でバイオ燃料の製造をやっているのだから、施設見学をして、その中で担当者に手法等について聞かれてもいいのではないかと。
今後、エコのメンバーの中で、拠点回収を行ってはどうか。
また、いろいろなケースを考えた中で、前進的な取り組みを図っていかれてはどうか。
施設見学については、今後計画をするのでよろしくをお願いしたい。